

正誤表（現況分析（教育））

73：九州大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01	02_文学部	p.2-7	少人数性	少人数 <u>制</u>	誤字があったため
02	05_教育学部	p.5-6	○ 理論と実務の架橋を語る	○ 理論と実務の架橋を <u>図る</u>	誤字があったため
03	07_実践臨床心理学専攻	p.7-6	(別添資料 7307-i4-6_財団法人臨床心理士認定協会「臨床心理士」合格率)	(別添資料 7307-i4-6_ <u>公益</u> 財団法人臨床心理士 <u>資格</u> 認定協会「臨床心理士」合格率)	資料名称の誤記載があったため
04	11_経済学部	p.11-2	「九州大学教育憲章」における教育目的を、学部教育において	「九州大学教育憲章」における教育目的を、 <u>学</u> 部教育において	誤字があったため
05	11_経済学部	p.11-4	○ 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目を開いている。[3.4] (別添資料 7311-i3-7「基幹教育履修要項」)	○ 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目を開いている。[3.4] (別添資料 (<u>再掲</u>) 7311-i3- <u>10</u> 「基幹教育履修要項」)	資料番号が誤っていたため

正誤表（現況分析（教育））

06	11_経済学部	p.11-5	○ 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。[4.1]（別添資料（再掲）7311-i3-7「基幹教育履修要綱」、7311-i4-7「課題協学科目シラバス」）	○ 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。[4.1]（別添資料（再掲）7311-i3- <u>10</u> 「基幹教育履修要 <u>項</u> 」、7311-i4-7「課題協学科目シラバス」）	資料番号が誤っており、また誤字があったため
07	12_経済学府	p.12-2	1. 経済学府は、「日本の様々～ こと目的としている。	1. 経済学府は、「日本の様々～ こと <u>を</u> 目的としている。	脱字があったため
08	12_経済学府	p.12-2	4. 「様々な分野で指導的立場で活躍できる人材を組織的に要請する」	4. 「様々な分野で指導的立場で活躍できる人材を組織的に <u>養成</u> する」	誤字があったため
09	12_経済学府	p.12-8	2018 年度から分野ごとに3コースへ細分化され、同時にIPMA が新設することで、	2018 年度から分野ごとに3コースへ細分化され、同時にIPMA <u>を</u> 新設することで、	誤字があったため
10	12_経済学府	p.12-10	また、教育の充実を図るため、外部講師を招くなどしてFD 研修会を年1～2回開催している。（別添資料712-iC-1～3）[C.1]	また、教育の充実を図るため、外部講師を招くなどしてFD 研修会を年1～2回開催している。（別添資料 <u>7312</u> -iC-1～3）[C.1]	資料番号が誤っていたため

正誤表（現況分析（教育））

11	13_産業マネジメント専攻	p.13-10	なお、修了判定は、九州大学教授会第5条に規定されるとおり	なお、修了判定は、九州大学教授会 通則 第5条に規定されるとおり	脱字があったため
12	17_システム生命科学府	p.17-6	NEEP： Enhanced Education Program	E EP： Enhanced Education Program	略称が誤っていたため
13	17_システム生命科学府	p.17-8	・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料7317-i7-7、（再掲）別添資料7317-i3-5、（再掲）別添資料7317-i7-5～6）	・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料7317-i7-7、 （再掲） 別添資料7317-i3- 6 、（再掲）別添資料7317-i7-5～6）	誤字があり、また資料番号が誤っていたため
14	17_システム生命科学府	p.17-8	・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（（再掲）別添資料7317-i3-5、（再掲）別添資料7317-i7-6～7）	・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（（再掲）別添資料7317-i3- 6 、（再掲）別添資料7317-i7-6～7）	資料番号が誤っていたため
15	19_医学系学府	p.19-10	・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（（再掲）別添資料7319-i4-02）	・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（（再掲）別添資料7319-i4- 03 ）	資料番号が誤っていたため
16	19_医学系学府	p.19-10	○ 医学専攻博士課程および～特定の曜日に集中的に授業科目を配置している。（（再掲）7319-i4-02）[D.1]	○ 医学専攻博士課程および～特定の曜日に集中的に授業科目を配置している。（（再掲）7319-i4- 03 ）[D.1]	資料番号が誤っていたため
16	20_医療経営・管理学専攻	p.20-3	（別添資料7320-i3-11～15）	（別添資料7320-i3-11～ 14 ）	資料番号が誤っていたため

正誤表（現況分析（教育））

17	21_歯学部	p.21-4	○ 基幹教育では、文理融合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL 科目である「課題協学科目」を全学必修科目として開講している。 (別添資料7321-i4-5、7321-i4-6、7321-i4-7)	○ 基幹教育では、文理融合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL 科目である「課題協学科目」を全学必修科目として開講している。 <u>(別添資料7321-i4-6、7321-i4-7)</u>	資料番号が誤っていたため
18	26_工学府	p.26-7	別添資料7326-i4-7	別添資料7326-i4- <u>8</u>	資料番号が誤っていたため
19	26_工学府	p.26-8	((再掲) 別添資料7326-i4-3)	((再掲) 別添資料7326-i4- <u>4</u>)	資料番号が誤っていたため
20	27_芸術工学部	p.27-2	前身の九州芸術工科大学（昭和43（1968）～平成15（2003））では、「技術の人間化」という進歩的なスローガンをかけ、いかに技術を人間生活に適合させるかを教育してきた。	前身の九州芸術工科大学（昭和43（1968）～平成15（2003））では、「技術の人間化」という進歩的なスローガンを <u>掲げ</u> 、いかに技術を人間生活に適合させるかを教育してきた。	誤字があったため
21	27_芸術工学部	p.27-2	3. ディプロマ・ポリシー「幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材養成」を実現するため、アドミッション・ポリシーでは、(1) 基礎学力、(2) 好奇心、(3) 感性、(4) 現力、(5) 柔軟性の5項目を強	3. ディプロマ・ポリシー「幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材養成」を実現するため、アドミッション・ポリシーでは、(1) 基礎学力、(2) 好奇心、(3) 感性、(4) <u>表現</u> 力、(5) 柔軟性の5項目を	脱字があったため

正誤表（現況分析（教育））

			調している。	強調している。	
22	27_芸術工学部	p.27-4	環境、工業、画像、音響、芸術情報の各分野の「高度デザイン人材」の養成を目標として、分野間の複合化、総合化のために、課題解決型学習（PBL）科目を多く配置している。	環境、 <u>工</u> 業、画像、音響、芸術情報の各分野の「高度デザイン人材」の養成を目標として、 <u>分</u> 分野間の複合化、総合化のために、課題解決型学習（PBL）科目を多く配置している。	誤字があったため
23	27_芸術工学部	p.27-6	芸術工学部における創造性教育支援のため、芸術工学部内で共用できる施設、設備の利用方法（安全教育を含む）を一覧できるブックレット/Webページを令和元（2019）年度に制作した。	芸術工学部における創造性教育支援のため、芸術工学部内で共用できる施設、設備の利用方法（安全教育を含む）を一覧できるブックレット <u>及び</u> Webページを令和元（2019）年度に制作した。	誤字があったため
24	27_芸術工学部	p.27-7	（（再掲）別添資料7327-1、別添資料7327-i7-3～6）	（（再掲）別添資料7327- <u>i7-1</u> ～ <u>2</u> 、別添資料7327-i7-3～6）	資料番号が誤っていたため
25	28_芸術工学府	p.28-5	また、大学のファイル共有システムによる研究、実験、論文指導などの大容量のデータを共有とディスカッション、 <u>また</u> 、遠隔会議システムを使った交換留学中や海外出張中の学生や教員間での遠隔研究会なども行っている。	また、大学のファイル共有システムによる研究、実験、論文指導などの大容量のデータを共有とディスカッション、 <u>遠</u> 隔会議システムを使った交換留学中や海外出張中の学生や教員間での遠隔研究会なども行っている。	誤字があったため
26	28_芸術工学府	p.28-6	授業科目と成績をオンライン上で確認できるシステムとなってお	授業科目と成績をオンライン上で確認できるシステムとなってお	誤字があったため

正誤表（現況分析（教育））

			り、学生が自分の単位取得状況とGPAを常に把握することができる。これにより、学習成果を可視化している。	り、 <u>学生</u> が自分の単位取得状況とGPAを常に把握することができる。これにより、 <u>学習</u> 成果を可視化している。	
27	28_芸術工学府	p.28-10	「技術の人間化」、すなわち技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神のもっとも自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計する芸術工学と言う特徴的なエンジニアリング教育を実施している。	「技術の人間化」、すなわち技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神のもっとも自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能 <u>を</u> 設計する芸術工学と言う特徴的なエンジニアリング教育を実施している。	誤字があったため
28	28_芸術工学府	p.28-13	毎年度修了時に修了生アンケート（約60%の回収率）によると、大学院における研究及教育に対す満足度は高く特に教育に係る質問においては殆どの項目で評点5点中4点以上が6割をしめ、より実践的な教育の効果が高かったことが示されている。	毎年度修了時に修了生アンケート（約60%の回収率）によると、大学院における研究及 <u>び</u> 教育に対す満足度は高く特に教育に係る質問においては殆どの項目で評点5点中4点以上が6割をしめ、より実践的な教育の効果が高かったことが示されている。	脱字があったため
29	29_システム情報科学府	p.29-2	また、留学生や社会人のなど多様な人材の受け入れ、	また、留学生や社会人 <u>などの</u> 多様な人材の受け入れ、	誤字があったため
30	29_システム情報科学府	p.29-6	「ICT 社会基盤デザイン特論」は全専攻で受講可能な選択科目で	「ICT 社会基盤デザイン特論」は全専攻で受講可能な選択科目で <u>あ</u>	誤字があったため

正誤表（現況分析（教育））

			は、	<u>り</u> 、	
31	29_システム情報科学府	p.29-6	学生は他大学の学生と共に2日講義を受け、	学生は他大学の学生と共に2日 <u>間</u> 講義を受け、	脱字があったため
32	29_システム情報科学府	p.29-6	その後各大学でチームごとに与えられた演習課題を1週間取り組み、	その後各大学でチームごとに与えられた演習課題 <u>に</u> 1週間取り組み、	誤字があったため
33	32_生物資源環境科学府	p.32-13	((再掲) 別添資料7332-iiE-1)	((再掲) 別添資料7332- <u>i</u> E-1)	資料番号が誤っていたため
34	32_生物資源環境科学府	p.32-16	・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 (別添資料7332-iiA-1)	・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 (<u>(再掲) 別添資料7332-i3-2</u>)	別添資料 7332-iiA-1 と別添資料 7332-i3-2 が同一資料であったため
35	32_生物資源環境科学府	p.32-16	○ 修士在学学生（博士前期・日本人）に対して2017年1月にアンケート調査を行い、博士後期進学についての回答を238名（全451名）から得た（別添資料7332-iiA-2）。	○ 修士在学学生（博士前期・日本人）に対して2017年1月にアンケート調査を行い、博士後期進学についての回答を238名（全451名）から得た（別添資料7332-iiA- <u>1</u> ）。	No.34 の変更により資料番号が変更となるため